

分析ツールとしての「ジェンダー」

- 30年間の調査研究をふまえて -

シンシア・コウバーン ロンドンシティ大学教授

「女性と男性との差異はいかにして成立するのか」という問いをたてると、私たちがどのような社会現象を研究対象として設定するとしても、より深く豊かな考察ができるようになる。今回のセミナーでは、イギリスにおけるジェンダー研究の発展に決定的なインパクトを与えたシンシア・コウバーンが、30年間にわたる先駆的な調査経験から、分析ツールとしての「ジェンダー」がもつ意義をあらためて提起する。

彼女は1970年代半ばから1990年代半ばまで、職場、労働組織、労働組合といった諸組織を対象とする労働過程と技術革新の調査研究を切り開いてきた。そこで研ぎ澄まされたジェンダー・アプローチは、労働研究領域でのみ応用可能な分析視角ではなくなっていった。彼女が近年たずさわってきた平和・紛争研究においても、この方法によって大きな成果をあげていることがその証左である。

資源配分、エージェンシー（担い手）権力といった諸点に着目して社会分析を行おうとするとき、階級関係と民族・国民グループ間関係が重要となってくる。だが、男/女、男性性/女性性という問題領域は、それに劣らず常に重要であり欠かすことができない分析軸なのである。複雑な現実社会を理解したいと考える者なら誰でも、彼女の思考の軌跡からより豊かな社会分析の方法を学び取ることができるだろう。



Ms. Cynthia Cockburn

著書：“Brothers：Male Dominance and Technological Change”（Pluto Press），

“The Space Between Us: Negotiating Gender and National Identities in Conflict”（Zed Books）ほか多数。

11月6日〔水曜日〕16時～

18時より懇親会（無料）

一橋大学佐野書院 *次ページ地図参照

（国立市中2-17-35 電話042-577-5230）

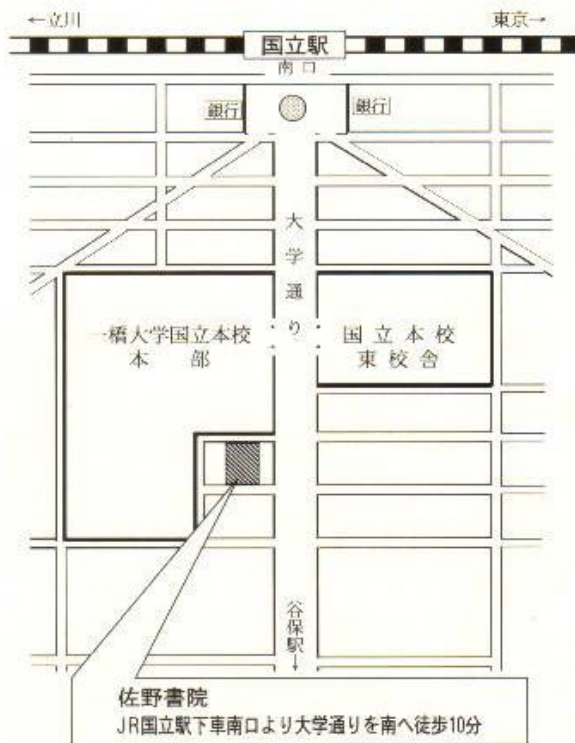
一橋大学大学院社会学研究科 木本喜美子

連絡先：一橋大学社会調査室 042-580-8832〔月～金の9:30～17:30〕

cs00533@srv.cc.hit-u.ac.jp（井上）

* 英文ペーパーの事前入手ご希望は上記連絡先まで

一橋大学 佐野書院案内図



一橋大学 佐野書院

東京都国立市中2-17-35

電話 (042)577-5230